

# 喜びに 決意新た

紫綬褒章

28日付発表の春の褒章で、学問や芸術などに貢献し、もその分野で卓越した功績が認められた人たちがばかり。控えめに語る受章の喜びに新たな決意を込めた。た紫綬褒章には全国で23人と1団体が輝いた。いずれ

## 「挑戦は前進」信条

立命館副総長  
元京都大教授  
村上正紀さん(65)



「共に研究を重ねた仲間が、ことを発見した。いたからこそ。恵まれた共同研究者たちに、心から感謝したい」と喜びを語る。

アメリカ・ニューヨーク州にあるIBM社の研究所に勤務していた一九八三年から、化合物半導体の研究に取り組んだ。専門の材料工学の知識と経験を生かし、半導体に特殊な金属を付着させ高温ですると、新たな中間層が形成され、効率的に電気が流せる

「満足は後退、挑戦は前進」が信条。「誰も手がけたことのない未知の領域にこそ、開発の喜びがある。若い研究者たちも失敗を恐れず、希望と確信を持って忍耐強く挑戦してほしい」と声に力を込める。

(龍太郎)

## 春の褒章

# 携帯の小型化に貢献

京都大名誉教授で学校法人立命館副総長の村上さんは金属薄膜材料学の専門家。金属と化合物半導体の間に「コンタクト材」と呼ばれる中間層を入れると電気が流れやすくなる現象を発見した。この成果はその後、携帯電話の小型化、軽量化などにも利用された。

立命館副総長

村上正紀さん(65)

71年に京大大学院を修了後、20年近く米国にいた。コンタクト材の開発に成功したのはIBMワトソン研究所の部門マネジャー時代。偶然、理論に反して金属と化合物半導体に電気が通りやすくなる現象を見つけた。スタッフを総動員し、すべての結果を見直してコンタクト材を見つけた。「共同研究者に恵まれた。彼らとの共同受章です」

京大を定年退職後、立命館へ。学内に設けられた政策提言機構の担当でもある。

